

# 日本画家 南正文 作品展

## よろこびの種を



入場  
無料

2018年2月9日(金) - 2月20日(火) ※19日(月)休館  
午前9時30 ~ 午後5時 ※金曜日のみ午後7時まで/最終日午後1時終了となります。  
※最終入館は、閉館時間の30分前となります。

浦添市美術館



この絵の前に立つと、涙が出る。本当に、優しいんですよ。

「終わりから始まる終わりのなき縁」、「禍福一如」、心に響く～よろこびの種を～

【同時開催】南正文ドキュメンタリー映画「天から見れば」 2月9日～2月18日まで  
火水木:午後2時～(1日1回)毎週末(金・土・日・祝祭日2/12)午前の部:10時15分～午後の部:2時～(1日2回)  
午後の部映画終了後30分程、スペシャルトーク&シェアがごさいます。※2月20日は入江監督の講演のみとなります  
入場料:大人2000円、子供・障碍割:1000円(中学生以下・障碍手帳呈示)

Masanori Minami

少年の様に純粋な心と、優しく温かな眼差しで、人を大切に想い  
笑顔で生きるその姿は、誰の心にも安らぎを与え、大切な事を教えてくれた。  
南氏自身である残された絵は、「これから先も  
ずっと多くの人の心に、「よろこびの種を」届け続けてくれるだろう。



南正文 1951年9月 大阪府堺市生まれ。

小学校3年生の春休みの最後の日、父が経営する木工所で、機械のベルトに巻き込まれて両腕を切断する事故にあう。怪我の為、2年遅れて養護学校へ4年生から入学し勉学と生活訓練に励む。中学2年の時、今は亡き口筆画家 大石順境尼の最後の弟子となり口に筆をくわえ毛筆と日本画に取り組む。

1967年、堺市展に初出品し、入選。以降、毎年公募展で入選、受賞を繰り返す。1975年、世界身体障害芸術家協会(現在の口と足で描く芸術家協会)会員となる。日本画家として、また協会会員として絵画の制作、個展を中心とした活動を続けながら、全国の少年院、寺院小学校、刑務所などを訪れ、講演活動やタイの里親制度に対する支援、また、ネパールでの小学校建設などを行う。2012年12月、永眠。生涯で、約900点もの絵画を制作する。

【お問い合わせ】 沖縄担当 造倉(栗山)初美 TEL:090-9781-6669  
Email:minami.yorokobinotane@gmail.com TEL:090-7463-5993(仲間)

《会場》浦添市美術館 TEL:098-879-3219

〒901-2103 沖縄県浦添市仲間1-9-2  
詳しくはホームページをご覧ください  
<http://museum.city.urasoe.lg.jp/>



主催・一般社団法人 南正文よろこびの種を / 協賛・口と足で描く芸術家協会・トータルプレイズ  
後援・沖縄県、浦添市、浦添市教育委員会、沖縄テレビ放送、琉球放送、琉球朝日放送  
沖縄タイムス、琉球新報、ラジオ沖縄、沖縄難聴・中途失聴者協会、うちな～笑行快  
ハートオブミラクル、ホノルル・ファンデーション

